

**令和8年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
実施計画書**

活動団体の本事業での活動テーマ

『21世紀型“さとうみエコシステム”』


活動団体の活動地域：広島県江田島市

活動団体名：一般社団法人フウド

中間支援主体名：一般社団法人HLL

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	一般社団法人フウド 
活動地域	広島県江田島市

### 専門性・強み

#フウド=風海土 #ぶれないミッション  
#江田島のまちづくり団体 #移住定住 #島外とのつながり  
#行政とのつながり #ステークホルダーとのつながり  
#さとうみづくり #海ごみ問題 #ビーチクリーン #企業研修  
#コミュニティづくり #地域交通 #人材育成  
#どこまでできるかやってみる

### 団体概要

「誇れる風土を次世代に」をミッションに掲げ、江田島市を中心とした広島湾周辺地域の風土を生かした活動を通じて、地域の活性化に寄与し、次世代に誇れる文化を創造していくことを目的としています。



## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	一般社団法人HLL
活動地域	広島県

### 専門性・強み

#共創 #地域課題解決 #知る→深める→カタチをつくる  
#中間支援 #伴走支援 #まちづくり  
#豊富なソーシャルキャピタル

### 団体概要

広島をフィールドとし、多様な人と人とのつながりや、分野や業種を越えた共創活動により、地域・行政・企業等の課題解決に取り組むことを目的とした団体です。同じ志を持つ社員、自営業者、社会起業家、フリーランス、市民団体など多様なバックグラウンドを持つメンバーを中心に、様々な自主プロジェクトや、企業・行政・団体等との連携プロジェクトを推進しています。

# 活動団体と地域の紹介

## 一般社団法人フウド



### 【目的】

江田島市を中心とした広島湾周辺地域の風土を生かした活動を通じて、地域の活性化に寄与し、次世代に誇れる文化を創造していく

「誇れる風土を次世代に」をミッションに、  
2018年11月に設立

- ◆ 移住定住促進:江田島市への移住相談対応、空き家バンクの運用
- ◆ コミュニティづくり:コミュニティスペースの運営
- ◆ 観光事業:観光商品の造成・催行(旅行業登録済)、観光イベントの企画運営
- ◆ 企業誘致:都市部企業の誘致のための情報発信及び視察対応
- ◆ 人材育成:企業や団体の研修受け入れ
- ◆ 海づくり事業:海岸清掃活動、海洋教育、普及啓発
- ◆ 情報発信:まちづくりに関する各種情報の発信



## 江田島市



協働と交流で創り出す「恵み多き島」えたじま

### 【概要】

広島湾に浮かぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々からなる。広島市や呉市からは6つの航路、呉市からは橋でもつながっており、半島地域として広島都市圏、呉都市圏の機能を分担できる位置関係にある。

### 【人口】

20,996人  
毎年500人以上  
(人口の約2.5%) 減少

### 【主要産業】

- ◆ 水産業
- ◆ 造船・製造業
- ◆ 農業

### 【地域資源】

- ◆ 水産資源
  - ・ カキ
  - ・ 海産物
- ◆ 農産物資源
  - ・ オリーブ
  - ・ 柑橘類
- ◆ 観光資源
  - ・ アグリツーリズム
  - ・ マリンスポーツ
  - ・ サイクリング
  - ・ トレッキング
  - ・ 史跡
- ◆ 環境資源
  - ・ 自然、教育資源  
(里海学習、海ごみ清掃)



# 1.活動団体の目指す地域の姿

## ■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

21世紀型“さとうみエコシステム”

古くからの営みと新時代の社会経済の組み合わせによって里海の風土と生態系がより良い状態で循環し続けるとともに、人材の還流と経済の循環によって適切な人口構造が保たれる、自然にとっても人にとっても幸福度の高い島

## ■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

域内外の多様なステークホルダーが連携・協働を図り、自立分散型の持続可能な地域づくりを進めることが重要。事業実施主体を伴走支援する組織と事業を審査し投資する機関を構築し、域外からの資金獲得、人づくりと仕事づくりの好循環を目指す。

## ■ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ①風海土をつくりつなげていくための基盤となるフードバンク事業
- ②豊かな海づくり事業  
(未来の海づくり大作戦)

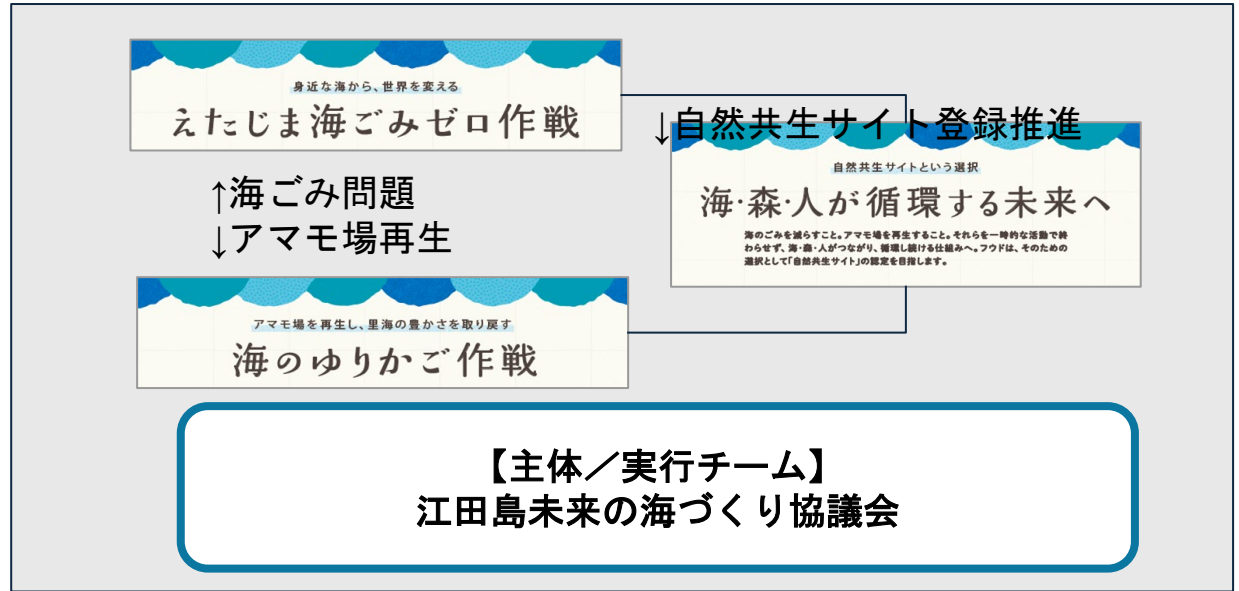
## ■地域の現状と課題

- ・観光等での消費は流入も、投資と経常収支では流出が顕著
- ・移住者等、飲食店や宿泊施設を開業する個人や事業者の増加。市、初の社会増
- ・まちづくりの動きはあるものの、各ステークホルダーの横の連携が不十分
- ・市を挙げての里海学習の推進（必修化）、海岸清掃を行うボランティア団体や個人の増加
- ・豊富な水産資源、主な域外所得となる造船業や水産業が強みであるが、海ごみやCO2排出量の問題も。
- ・コロナ禍を経て回復傾向にある観光業
- ・とどまらない人口減少と少子高齢化

# (参考) ローカルSDGs 事業の紹介

## > ビジョンの解像度UP & アクション

### 【事業①】 未来の海づくり大作戦



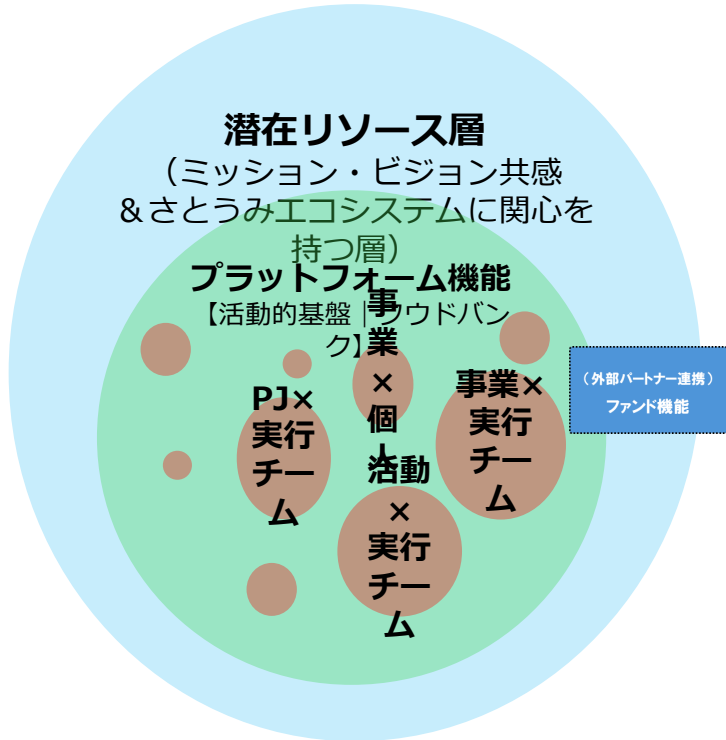
## > 仕組みづくり

### 【事業②】 フードバンク(活動的基盤) の構築・推進

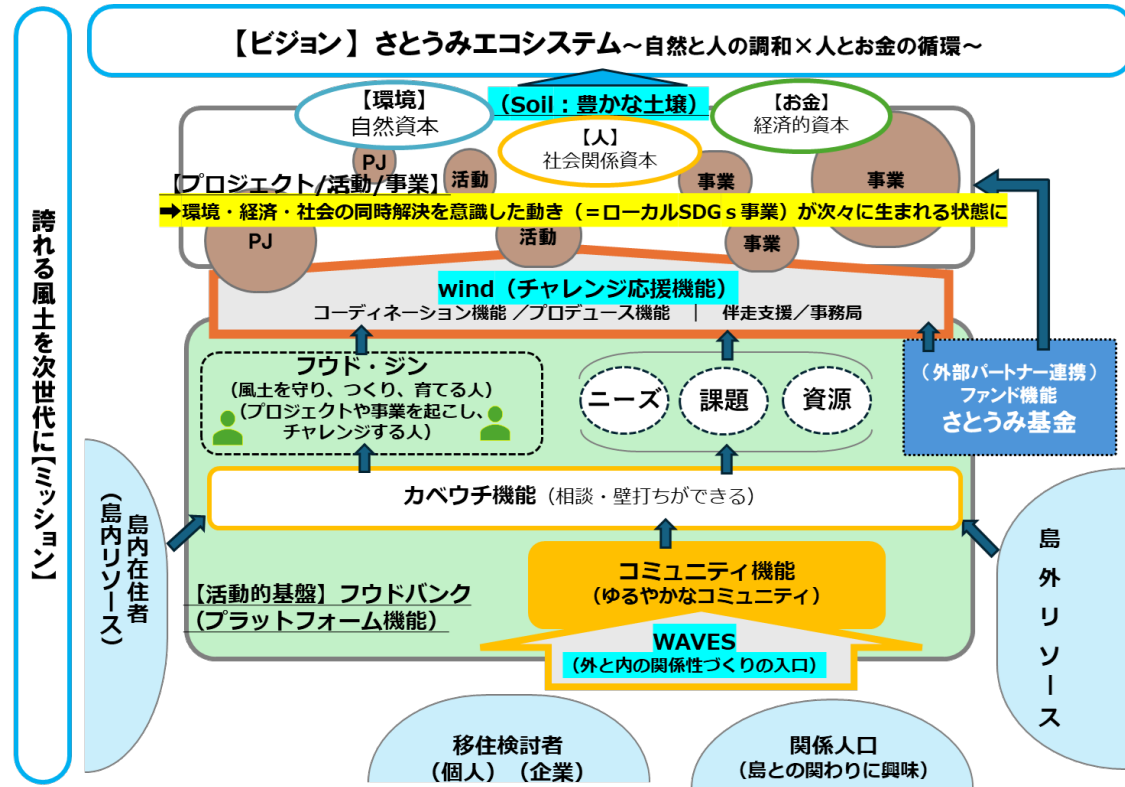


# 目指す“地域プラットフォーム”イメージ

<平面図>



<断面図>



## 特徴

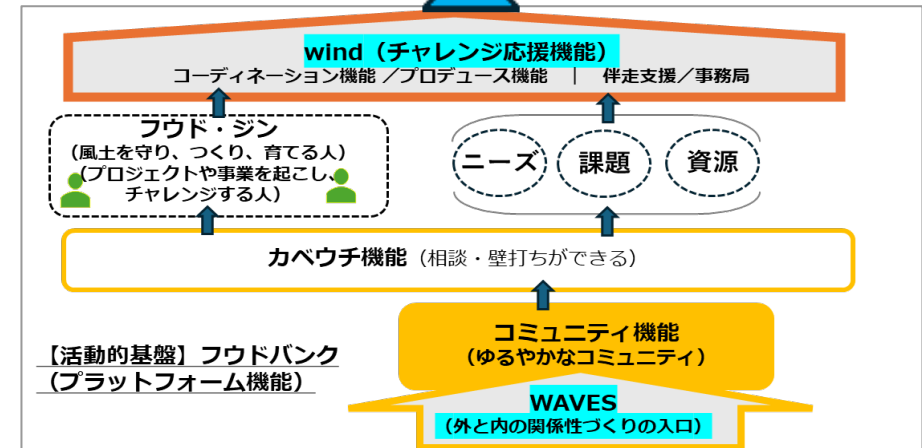
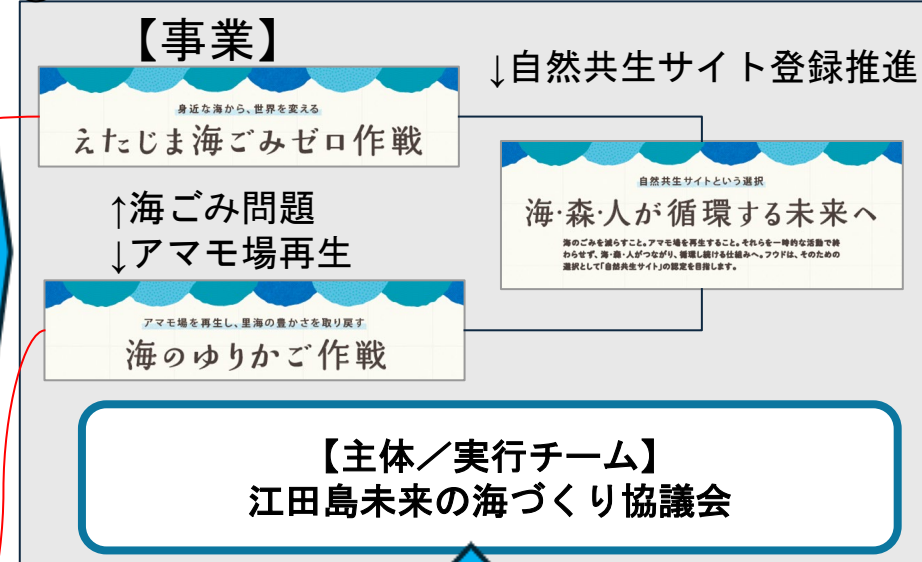
- ・ステークホルダーの集合体 (マッピング) ではなく、「機能」を中心とした仕組み (システム)
- ・島内外の多様な主体が、課題・ニーズの解像度を上げ、必要な資源と結びつき、事業を生み出していくための活動基盤
- ・コンセプト (ミッション・ビジョン) への共感による包摂・連帯
  - ・江田島のフード (風海土)
    - = 環境・社会・経済の同時解決×持続可能な地域づくり
  - ・さとうみ
    - = 人の手がほどよく加わることで、生物の多様性と生産性が高まる海と伴にある地域

# 江田島エリア版マングラ



ローカルSDGs 事業の取組【ビジョンの解像度UPとアクション】

## ① 未来の海づくり大作戦



ローカルSDGs 事業の取組【仕組みづくり】

## ② フウダバンク (活動的基盤) の構築・推進

# 3 力年状態目標

## ■2027年度末の状態目標

- 江田島のローカルSDGs事業「未来の海づくり大作戦」に対して、必要な資金の一部を、フードバンクのファンド機能を活かして資金調達できている状態
- 江田島において、フードバンクを活かしたローカルSDGs事業が、他にも1～2件生まれている状態
- 江田島×安芸太田の広域連携によるローカルSDGs事業が試行されている状態

## ■2026年度末の状態目標

- 地域循環共生圏の実現支援機能を備えたプラットフォーム（＝フードバンク）の目的・事業・体制が決まり、ビジネスモデルについて議論され、部分的に事業が始まり、サービスが公開されている状態。
- フードバンクにおけるファンド機能（資金調達支援・資金循環）についての仮説が事業パートナーとともに作成され、試行されている状態。
- 安芸太田との広域連携として、ローカルSDGs事業のタネを見つけ、その実施計画が進んでいる状態

## ■2025年度末の成果と振り返り

- 活動的基盤づくり（フードバンク事業）と中間支援主体の役割を統合・発展させ、広島県域での中間支援機能を持つフードバンク事業とそのリーディングモデルとしての江田島での取り組みと整理できた。
- ファンド機能（資金調達支援・資金循環）について、広島県内で地域づくりのファイナンスに関わるステークホルダーとのミーティングを開き、目指す姿や実際の機能について、広い視野で議論が進んでいる。
- 太田川流域としてつながりを模索していた安芸太田の共生圏づくりの取組との広域連携の検討が始まる

# 今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現する か	実現のために何をするか	実現のために必要なこと（ヒト/ モノ/カネ/仕組み/機能等々）
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を生み出す</li> <li>&amp;</li> <li>・体制を整える</li> </ul> <p>【フードバンク事業】</p>	2026年度上半期 (9月末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固まりつつある事業アイデア・モデルをビジュアル化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の骨子を言語化する</li> <li>・事業モデルの言語化とビジュアル化を手助けしてくれる専門家を見つける</li> <li>・実施体制を整える</li> <li>・ビジュアル化し、公開する</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を生み出す</li> <li>&amp;</li> <li>・地域のビジョンを描く</li> </ul> <p>【フードバンク事業のファンド機能】</p>	2026年度中 (パートナー連携による機能の確立は、2027年度以降も継続する取組テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーMTG ↓</li> <li>・関係性をつくり、</li> <li>・共通理解を深め、</li> <li>・事業としてのあるべき姿を描き、方向性を決める ↓</li> <li>・小さく試行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モチベーションの維持</li> <li>・関係者間のスケジュール調整</li> <li>・話し合った内容の整理と共有と納得感の確認</li> <li>・具体的なアクションのタネ</li> <li>・アクションの評価と修正</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間を見つける</li> <li>&amp;</li> <li>・地域のビジョンを描く</li> </ul> <p>【広域連携事業】</p>	2026年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひろしま流域フォーラム」(仮)の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現に向けて協働することを通じ、ステークホルダーMTG化し、共通言語を持ち、関係性が深まり、プラットフォームが形成されていくよう意識する</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を生み出す</li> </ul> <p>【未来の海づくり大作戦】</p>	2026年度中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーMTG</li> <li>・事業協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合う場の設定</li> <li>・関係者間の考え方の調整 = 事務局機能の強化</li> </ul>

# 中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

## ■中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体が地道に仕込んできた甲斐もあり、未来の海づくり大作戦は、ステークホルダーを巻き込む形で実行・拡大フェーズに入りつつある。新たな案件なども話が来ている中で、

- ・現場の現状を回すためのリソースの手配や、やって終わりにしない次を見据えた企画・運営サポート
- ・次年度と今後を見越した、資金調達計画づくりと調達サポート
- ・フードバンク事業のリリースやファンド機能検討の推進など、地域づくりのための基盤強化

## ■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	ローカルSDGs事業（未来の海づくり大作戦）は、ステークホルダーを巻き込む形で実行・拡大フェーズに入りつつあり、活発な活動も計画されている。	<b>【目の前   短期】</b> ・現場を回すためのリソース、特にヒトとカネの手配。WAVESの取組などでできつつある関係人口コミュニティや情報発信、寄付集めなど、今後のモデルとなるような取組をトライアルしながら、現状の課題に対処していく
②	新たな案件なども話が来ている中で、 <ul style="list-style-type: none"><li>・目の前</li><li>・次年度</li><li>・基盤強化</li></ul> の課題を抱えていると考えている	<b>【次年度   中期】</b> ・例：地域の関係者との対話の場を積極的につくる。また、なぜそうありたいのか、どういうことを意味しているか、など問いかけることで、ビジョンを言語化できるようにする。
③		<b>【基盤強化   中長期】</b> ・安定的な財源の確保と事業の成長を両立させるための仕組として、フードバンク事業を事業としてリリースし実行していくことや、現在進めているステークホルダーとのファンド機能検討を進め、試行しながら知見を得ながら関係性をつくる

# 中間支援主体のありたい姿

## ■中間支援主体としての獲得目標

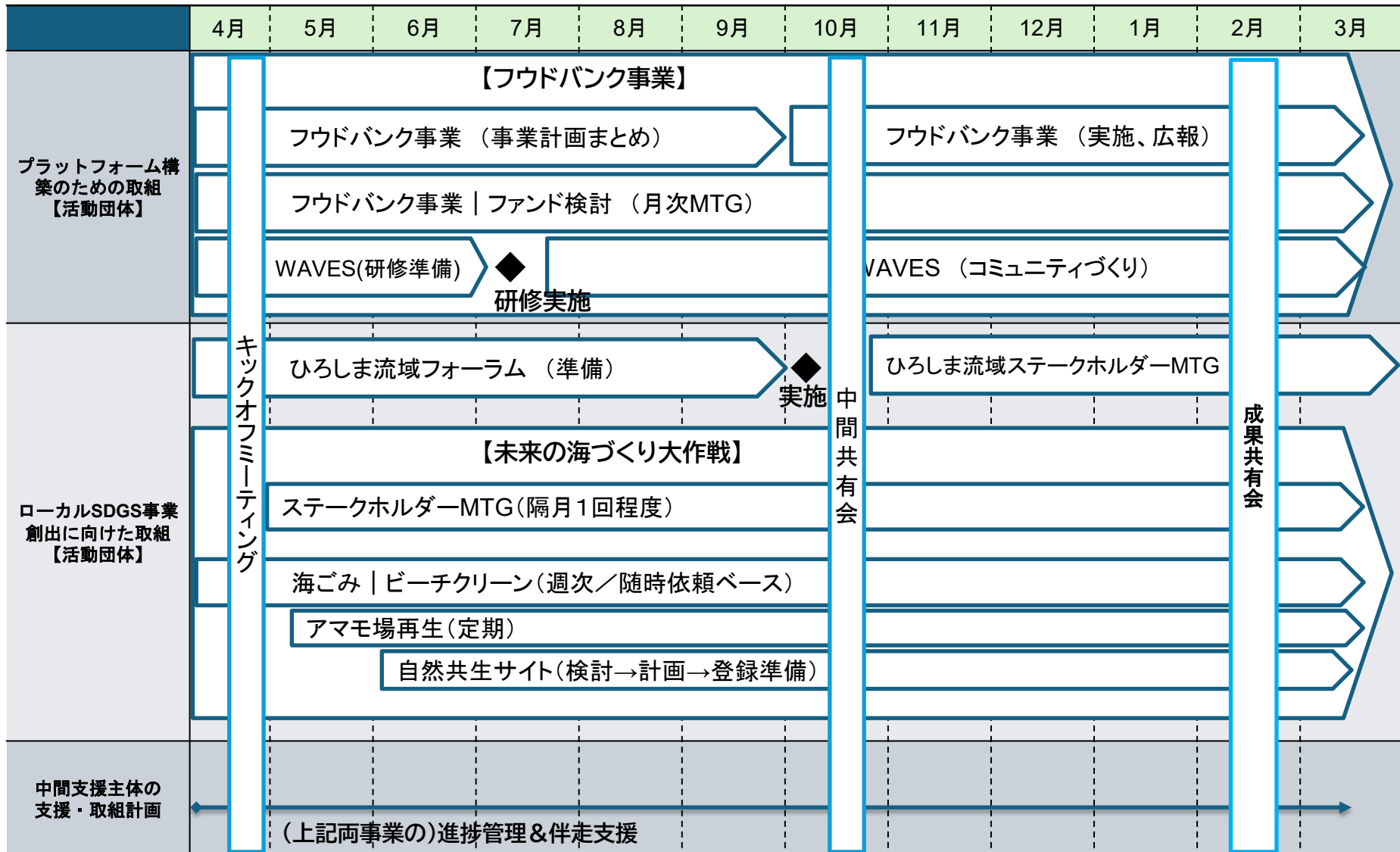
- ①事業の成果をまとめて、カタチにして、見せる
- ②地域づくりのための、ファイナンスの仕組みづくりを検討し、推進する
- ③地域を超えた広域連携を、「流域」という共通テーマを持つステークホルダー同士の場として推進する

## ■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

- 本事業を通じて生まれつつあるフードバンク事業。これを母体に、広島県域で中間支援を行う。
  - ・風海土（ふうど）を守り伝えていくために、
  - ・地域やつながりの中に存在する資源（リソース）を活かし、ヒト・モノ・カネ・情報・ノウハウ・知恵等を集めて回す仕組み
  - ・活動主体への伴走支援をベースにしたオーダーメイドの地域づくりを推進する中で、
  - ・集めたりソースが適切に活用され、成果にむすびつくように、プロデュースやコーディネーション機能も発揮する
- フードバンク構想において未完成のファンド機能について、引き続き関係者との協働とトライアルを重ね、持続性のあるカタチを模索していく。
- 本事業を通じて得た経験や手法を言語化したり、体験を共有化しながら、中間支援に必要なマインド・スキルや、進め方や有効なプロセス・ツールの考え方・作り方を整理し、そのノウハウを必要とする他地域の他の人たちに展開していく。

# 活動・支援スケジュール【R8当初計画】

## ■スケジュール



備考 なし